

# 石 すとーん・さーくる

No.84

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

## 見学会余談 幻の弁天様

上越地区石仏見学会実行委員会

上越市五智、通称

屏風谷の県道沿いに、

阿弥陀三尊、地蔵菩薩、不動明王、弁財天が彫られた「浪除地蔵尊」を祀る小堂（写真）がある。

かつては旧加賀街道沿の難所であった五智赤岩付近の波打ち際にあつて村や旅人の安全を願つたと思われるが、今は新道の頑丈なお堂に安置されて後ろ正面の弁天様は目にすることができない。

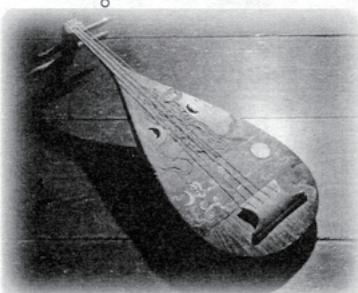
けれども幸いなことに上越地区会員である金子正彰氏がお堂に安置される前に拓本（写真）を採つていたことから今回弁天様のふくよかなお姿と、像の下部に刻まれた寄進者の名前が確認できた。それにも何故一石に如来、菩薩、明王、天部が彫られたのだろうか。

根拠には乏しいが、そもそもこれら四面の仏様



は独立して造立されたもので、後に何らかの理由で一基にまとめられたのではないだろうか。そうであればこれだけ立派な像塔に紀年銘が無いことや脈絡の無い諸尊が一緒に彫られたことも不可解ではない。造立は江戸時代、寄進者は旧居多村の住人と見られる。それでもなお弁天様の由来は見えて来ず、謎は解けないままである。だから石仏探訪は楽しいのかもしれない。

蛇足であるがこの弁天様が持つ琵琶は国分寺の琵琶伝説を想起させる。昔盲目の旅の法師が国分寺を訪れ、治癒を願つたところ目が見えるようになった。お札に置いていた琵琶（写真）は先の火災で本堂と共に焼けてしまったが、天女が描かれた立派な物だったという。なぜか天女と弁天様が重なつて見える。（漫步）



## 五智の石仏と 文化財巡りに参加して

上越市 朝比奈 ト ミ

四月二十九日、上越地区石仏見学会に参加しました。集合場所の五智歴史の里会館は、丁度満開を迎えた八重桜の淡紅に包まれていました。少し肌寒さを感じましたが青空に映える桜にしばし見とれています。

午前の見学は、まず、五智国分寺から。

二班に分かれて境内の建造物、石仏、石碑を巡りました。現在の山門（仁王門・上越市指定文化財）は、寛政六年（一七



九四）に焼失し、天保六年（一八三五）に再建したとのことです。名立出身の長井要壱と弟子によつて制作された高さ二・七メートルの勇猛な仁王像に圧倒されると、屋根瓦は、かつて、国分寺付近で焼かれていた五智瓦が使われているとの説明がありました。

山門から境内に歩を進めると、一面の新緑が春風に揺らいでいました。その中に、全国に一四基あるという三重塔の中でも最も美しいと言われる三重塔（新潟県指定文化財）が木々を背景にすくと建っていました。壁面には緻密な十二支と中国十二孝がはめ込まれています。知識のない私でも、この塔の構造美にすっかり魅了されました。

さらに、経蔵、越後に流された親鸞聖人がしばらく住まいした竹の内草庵、親鸞聖人像、数多くの文化人碑などがあり、五智国分寺が古来より人々の信仰の中心であったと納得しました。

昭和六十三年に火災で焼失し、平成十年に再建された本堂に、胎藏界大日如来・四方仏の阿弥陀如来・薬師如来・宝生如来・不空成就如来の合わせて五仏が安置されていました。この五仏も新たに造立されたものですが、ヒノキの一本作りで

漆が施されています。そのため黒褐色の姿をされていて、私には、ずっと昔から、訪れる人々をその温かい眼差しで包み込んできたかのように見えました。



毎回、その地域ならではのものが味わえる昼食。今回は、「信越駅弁味の陣」優勝の「鱈めし弁当」に大満足でした。

休憩もそこそこに、越後一の宮居多神社宮司で上越郷土歴史研究会会長の花ヶ前盛明氏の「五智の歴史と文化」と題した講義をお聴きしました。居多神社が越後一の宮たる所以や、祭神は大国主命・奴奈川姫・健御名方命であり縁結び・子宝・安産祈願の神として信仰されていることなどを学びました。

居多神社では、晴れやかなお宮参りのご家族と一緒に頬を緩めながらの参拝となりました。

続いて車に分乗させていただいて、郷津付近の山中にある岩殿山明静院を目指しました。険しい山道を登ること五分、見上げると、寺の左手に巨岩がそり立ち、こんもりとした森に囲まれた別世界



にその寺は静かに建っていました。ここでは、私の一番の目的であつた国分寺奥の院岩殿山大日堂に安置されている木造金剛界大日如来坐像（国指定重要文化財）を間近で拝観することができました。住職のお話の後、如来像の背後にまで回り込んでよいとのお許しが出ました。その際、そつとそのお膝にふれさせていただいたのは私だけではなかつたようです。

像高一一七センチの座像で、細くしまった腰や横に広くて薄い膝張り、全体に穩やかな容姿は、平安時代後期の特色が見られるとのことでした。中央（京）の仏師によって制作されてこの地に運ばれたものと考えられているそうです。この、ため息の出るようなしなやかな美しさは、多くの人々の心を捉えて来たことでしょう。

最後に、居多ヶ浜に向かいました。海辺から丘への上り口の石垣の上に「親鸞聖人御上陸之地」の石碑が建っていて、ここがその地であることが確認できました。石段を伝って上に登つてみると、直江津の港や遠くは筒石方面まで見渡すことのできる見晴らしのよい丘でした。ここは、近年、親鸞ゆかりの地として、東屋、展望台、駐車場などの整つた公園と



して整備されています。親鸞聖人は、京都から陸路を辿り、糸魚川市木浦からは小舟でここに上陸されたということです。遙か水平線を見渡すと、美しい日本海の夕日に照らされた親鸞聖人を乗せた小舟のシルエットが想像されました。夏には穏やかな、しかし、厳冬には荒れ狂うこの海原を眺めながら、親鸞聖人は、専修念佛による救いの恩恵を人々に施すことを使命として七年間を過ごしたことでしょう。

晴天に恵まれて、五智周辺を巡つた一日。この地に生きた先人の活気に満ちた息づかいと祈りにふれることのできた見学会となりました。この日のために準備をしてくださった実行委員の皆さんに感謝。

## 事務局だより

### ◇平成25年度総会報告

5月12日（日）、今年度総会が長岡市中央公民館（四〇一号室）で開かれました。以下、概要を報告します。

第一部は公開講演会（10時～12時）と

して当会会員・野口敏樹氏（佐渡市教育委員会）による「佐渡の石仏にみる民間信仰」と題する講演が行われました。

佐渡における石仏研究史から話を起こされ、豊富な石仏画像とともに佐渡の石仏とその信仰についてお話を頂きました。講演会参加27名。

第二部の総会（13時～16時）では①平成24年度事業・決算報告、②平成25年度事業計画・予算案が承認された後、今回

のメインテーマである③創立20周年記念事業について、の審議に移りました。ま

ず今秋当会と共に新潟県立博物館企画展「石仏の力」の企画案が大楽和正

氏（県立歴史博物館主任研究員・当会会員）より紹介され、続いて事務局よりこれに伴う記念事業予算案ならびに祝賀会案が提示され、活発な意見交換の後、全

会一致で承認されました。総会参加25名。なお詳細は同封の関係資料をご覧願い

ます。



講演する野口敏樹氏

### ◇下越地区見学会の日程が決まりました

総会時に未定の下越地区見学会（阿賀町の鐘馗さまと石仏めぐり）は11月7日（木）に実施となりました。

### ◇あだ名のある地蔵さんを探してます

前記「石仏の力」展のプロローグに「お地蔵さんのチカラ」として様々な願いを受けとめる地蔵の姿を写真で紹介します。いっぽ地蔵・虫歯地蔵・おこり地蔵・雨乞い地蔵など、皆さんのが近に具体的な

分析の内容が冠された地蔵さんがありましたが左記まで情報提供をお願いします。



### 編集後記



### ◇新年度会費納入のお願い

平成25年度会費納入をお願いします。同封の振込用紙にてお早めに振込願います。

▼上越地区見学会は定員を上回る四十名が参加。▼二十周年の事業計画が発表された。盛りだくさんの企画でどれも参加したいものばかり、みんなで参加して盛り上げよう。

（漫歩）

### ◇企画展ポスター類とチケットの郵送

企画展「石仏の力」のポスター1枚とチラシ10枚、チケット2枚（会員料分）を七月中に郵送します。ご活用下さい。

なお、企画展チケットの追加希望者は、一枚560円（団体割引料金）で頒布します。追加注文用紙を同封しますので、沢山のご購入を期待しています。

新潟県立歴史博物館学芸課 大楽和正

TEL 0258-47-6134

〒940-2035 長岡市関原町一丁目